

科目名	国際協力論	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	山田 裕史	実務経験の有無		○	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-350014	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	<p>国際協力は、何のために、誰が、どのように行うものなのでしょうか。本講義の目的は、①国際協力の歴史的展開をおさえたうえで、②国際協力の主体およびその活動の現状と課題を理解し、③グローバル化する世界に生きる市民として、私たち一人ひとりが実践できる国際協力のかたちを考えることにあります。</p> <p>今年度は、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を軸に、国際協力や国際開発について学んでいきます。SDGsとは、貧困や飢餓、気候変動、人種やジェンダーに起因する差別などの地球規模の問題・課題を、国際社会が協力して2030年までに解決しようとするもので、その実現に向けた取り組みが本学でも始まっています。私たちの日常生活がどのようにSDGsの実現や国際協力につながるのか、あるいは否定的な影響を与えるのかを認識するために、ファストファッションや食品ロス、使い捨てプラスチック製品など、身近な話題についてもとりあげます。</p>				
学修到達目標	<p>(1) 国際協力がどのように発展してきたのか、その歴史的背景を説明することができる。</p> <p>(2) 国際協力のアクターにはどのようなものがあり、それぞれどのような活動を行い、どのような強みや課題をもっているのかを説明することができる。</p> <p>(3) 地球市民として日常生活において実践できる、自分なりの国際協力のかたちについて説明することができる。</p>				
実務経験との関連性	国際協力NGOでプロジェクトに従事した経験を授業内容に反映する。				

授業計画	
第1回	イントロダクション：国際協力とは？
第2回	SDGsを理解するためのワークショップ
第3回	貧困と飢餓（SDGs 1, 2）

第4回	「援助」することの意味を考えるワークショップ
第5回	保健・健康 (SDGs 3)
第6回	なぜ、どのように国際協力を行うのか
第7回	質の高い教育 (SDGs 4)、ジェンダー平等、女性と女の子のエンパワーメント (SDGs 5)
第8回	開発援助という行為と用語
第9回	都市・人間居住、水、衛生環境 (SDGs 6, 11)
第10回	「善意は善行を保証しない」
第11回	持続可能な消費と生産 (SDGs 12)
第12回	大量廃棄社会の実態：ファストファッションと食品ロス
第13回	【学外講師による講演】民間企業とSDGs (SDGs 17)

第14回	気候変動とパリ協定 (SDGs 13)、陸と海の生物多様性 (SDGs 14, 15)
第15回	まとめと振り返り
第16回	期末試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。テキストの指定箇所を精読する。
【復習】時間・内容	2時間。テキストの不明点を理解する。

成績評価	
評価基準・方法	授業外レポート (40%) と期末試験 (60%) を合わせて総合的に評価します。
フィードバック方法	授業外レポートに対するフィードバックとして、授業中に補足の解説や質問に対する回答を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク
教科書/参考書	南博・稲場雅紀『SDGs：危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年 その他、各回のテーマに関連する文献・資料を授業中に配布します。
受講上の留意点等	専門科目であるため、平和学、国際関係論、世界史（近現代）、異文化理解など、関連する基礎科目を履修済みであることが望ましいです。 ほぼ毎回、くじ引きで座席を決め、4人1組のグループを作り、グループ・ディスカッションやワークショップを行います。 受講者には、事前に教科書を精読することや、グループ・ディスカッションやワークショップでの発言・発表など、事前の準備と授業内での議論への積極的な参加が求められます。
JABEE	